

「英数確保のための畦間かん水」「適正な病害虫防除」「早めの雑草対策」
を徹底し、品質・収量の高い大豆づくりを目指しましょう！！

1. 畦間かん水

～開花期以降のかん水で、
落花・落莢、青立回避～

- ・培土作業でできた溝と額縁排水溝は必ず連結して排水口につなぎ、スムーズに入水、排水ができるようにしましょう。
- ・開花期頃(全株数の40～50%が開花)から、9月上旬頃までの間に3日以上晴天日が続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を行い、落花・落莢を回避し、英数の確保に努めましょう。
- ・畦間かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止め、速やかに排水しましょう。

排水口まで
溝を連結



畦間と額縁排水溝を連結し、
入排水を促進



葉が裏返った状態の大豆
(かん水が必要！)



帰化アサガオと大型雑草
に覆われた大豆ほ場

2. 雑草防除

- ・培土後も残草が見られる場合は、雑草の種類や生育状況を確認し除草剤を散布しましょう。

○難防除雑草（帰化アサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類）が増えています。
早期発見に努め、見つけ次第速やかに防除（手取り除去，除草剤散布）してください。

表1 大豆の生育期処理除草剤

対象雑草名	薬 剤 名	使 用 時 期	使用方法	10a 当たり散布量	本剤使用回数
1年生雑草	バスタ液剤 (非選択性除草剤)	本葉5葉期以降、雑草生育期 但し、収穫28日前まで	畦間・株間 処理	薬量 300～500ml (水 100ℓ で希釈)	3回以内
	ロロックス (非選択性除草剤)	本葉3葉期以降、雑草生育期 (雑草の草丈 15cm以下) 但し、収穫30日前まで		薬量 100～200g (水 70～150ℓ で 希釈)	1回

※バスタ液剤、ロロックスの散布は吊り下げノズルを用い、大豆に薬剤がかからないよう注意して散布してください。

3. 病害虫防除

～適期の病害虫防除により、高品質な大豆に仕上げましょう！～

表2 薬剤と散布時期の目安

防除体系	防除時期の目安		対象病害虫	薬 剤 名	使用時期	10a 当たり散布量
随時	7月下旬～8月上旬 (葉が巻き始めたら)		ウコンノ メイガ	ダントツH粉剤DL	収穫7日前まで	4kg
				プレバソン フロアブル5	収穫7日前まで	希釈倍数 4,000 倍 使用液量 150～300ℓ
基本 (1回目)	莢が伸び きった頃	8月10日 頃	紫斑病	Zボルドー粉剤 DL	-	3kg
			カメムシ類	スミチオン粉剤3DL	収穫 21 日前まで	4kg
基本 (2回目)	1 回目の 10 日後	8月20日 頃	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	トライトレボン粉剤 DL	収穫 14 日前まで	3kg

※防除の際は、農薬使用基準を必ず守り、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

○カメムシの加害が著しいと、大豆が青立ちする場合があります。

○8月下旬～9月上旬に、カメムシ類が多い場合は、ダントツ剤等で追加防除を行いましょう。



イチモンジカメムシ(約1cm)



ホソヘリカメムシ (約1.5cm)

大豆を加害するカメムシ類※ () は体長

○マメシクイガは幼虫が大豆の子実を加害するため、収量や品質に影響します。

○例年、被害の多い地域では8月下旬～9月上旬に、ダントツ剤及びプレバソン剤等で追加防除を行いましょう。



マメシクイガによる加害

○農作業の際は、適切な水分・塩分補給やこまめな休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！